

人郷夢

ストーリー

Vol.13

このコーナーでは、まちづくりなどの活動に取り組んでいる市民の方やグループにお話を伺い、活動内容や活動にかけける思いをシリーズで紹介します。

「滝根っこまつり」をご存じですか？「滝根っこ夏まつり」や「滝根っこ冬まつり」と題するイベントが、これまでに通算14回、JR神俣駅前で開催されてきました。

「滝根っこまつり実行委員会」は、少子高齢化や過疎化による地域経済の衰退をただ傍観するのではなく、住民自らが地域おこしの担い手として積極的に活動しています。

今回は、実行委員会事務局長の二瓶竹志さんにお話を伺いました。

「滝根っこまつり」のはじまり

平成21年10月、滝根町の有志が話し合っていました。当時は、神俣駅前周辺の活性化などの活動は、特に女性が精力的に進めていたのですが、「男性も負けずに、

地域のために頑張るべきだ」との思いが強まっていたのです。話し合いの結果、イベントを実施することでまともりました。それが「滝根っこまつり実行委員会」

のはじまりです。

夏まつりは、地元若連会主催の盆踊り大会と併せて、帰省時期の8月15日に毎年開催することにしました。さらには田村市後援による花火大会を織り交ぜ、地域の人々の癒しと安らぎの場を提供しています。

コスプレで地域が元気に！

観光資源の目玉である「あぶくま洞」や「入水鍾乳洞」の観光客は、原発事故の影響から徐々に戻りつつありますが、風評は根強く、観光関連事業をはじめ商工業や農林業も、いまだに低調です。そこで、風評によって傷ついた地域の自然と産業そして人を再び活性化させ、さらには交流人口を増加させるため、コスプレ大会を提案しました。これが見事に当たり、遠くは静岡県から参加するなど、県内外のコスプレイヤーが集結するイベントになりました。10月10日に開催した神俣駅開業101周年記念でのコスプレ大会では、60人ものコスプレイヤーが参加し



▲市内外のコスプレイヤーが参加（10/10）、17ページに関連記事



▲夏まつりで新生滝根小の児童が新しい校歌を披露（8/15）



▲スタッフとして多くの中高生が協力

郷土愛を育み次世代につなぐ

28年度は、福島県地域創生総合支援事業（※1）を活用し、スマートフォン用アプリの開発・運用を通して、観光資源や地域の隠れた魅力を発信する事業を展開しています。また、田村市協働のまちづくり支援事業（※2）を活用して、アプリで広範囲に話題を拡散するため、独自のオリジナルキャラクターを作成、アプリで活用する計画を進めています。

スマートフォンカメラ機能と連動させ、アプリ利用者が好きな場所でアニメ

キャラクターと撮影できる機能や、アニメキャラクターがあぶくま洞内や名所旧跡の案内役を務める機能を持たせ、従来の広告では集客できなかった年齢層の観光客を開拓し、観光と交流の機会を作り出したいと考えています。

さらには、地元の行事に無関心な若年層に関心を持たせることで、郷土愛を育むことを積極的に展開していきたいですね。そのために、イベントでは中高生にスタッフとして活躍してもらっています。

取材を終えて

「オリジナルキャラクターを宣伝することで、観光や観光をコンセプトにツーリズム事業を展開し、田村市観光事業との協働を図りながら地域活性化につなげた」と熱く語ってくれた二瓶さん。細かい書類作成からまとめ役まで、本業のかわらわ日々忙しく活動されています。

コスプレを集客に活用する自治体は増えていきます。北九州市では26年から、主催で漫画の原画展やアイドルのライブを開催し、2日間で約17万人が来場しました。何かに熱中できる強いパワーを持っているのがオタク。今やおもしろい取り組みは、SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）を通じて拡散し、遠方からでも仲間が集まります。

彼らの情熱を地域の活性化に活用する二瓶さんたち取り組みは、今後ますます広がっていくでしょう。

（協働まちづくり課）